

提案者（ 医学研究科 明智龍男 ）

プログラム名	地域と育む未来医療人「なごやかモデル」 コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム
プログラムの目的	エイジング・イン・プレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成する。
対象学生	医学部、薬学部、看護学部の学生
備考	本プログラムは、連携大学である名古屋学院大学リハビリテーション学部の学生と共に履修する。

提案者（ 医学研究科 明智龍男 ）

プログラム名	地域と育む未来医療人「なごやかモデル」 コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース
プログラムの目的	エイジング・イン・プレイス(AIP)社会の医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者を養成する。コース修了者は、多職種協働による在宅ケア、認知症ケア、緩和・終末期ケア、コミュニティとの協働による地域包括ケアのコーディネートを含む、超高齢社会の多様なニーズに対応し、かつ、未来医療のデザインや開発に貢献することが期待されている。
対象学生	医師、薬剤師、看護師、理学療法士等の医療福祉系の免許を有し、名古屋市立大学医学研究科修士課程・博士課程、薬学研究科博士前期課程・博士後期課程・博士課程、看護学研究科博士前期課程・後期課程のいずれかに在籍する大学院生または同課程の科目等履修生（ただし、修士課程または博士前期課程に在籍する学生においては、原則として保健医療福祉現場の経験を3年以上有する者）
備考	本プログラムは、連携大学である名古屋工業大学工学研究科との単位互換科目を含んでいる。

学部・研究科横断型教育プログラム企画書

医療系学部・研究科連携教育委員会 (AMEC)
委員長 医学研究科 早野順一郎

プログラム名	地域と育む未来医療人「なごやかモデル」 コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム
対象学生	医学部：1・6年生、薬学部：1・6年生、看護学部：1・4年生
目的	エイジング・イン・ブレイス(AIP)社会における医学・医療の発展と向上の必要性を理解し、医療のプロフェッショナルとしてそれを担う使命感と、その基盤となる多職種協働能力を持った人材を育成する。
修了要件	必修科目 4 単位、選択科目 6 単位、合計 10 単位
履修内容	<必修科目> 1. インタープロフェッショナル・ヘルスケア論(2 単位：1 年次) ① インタープロフェッショナル・ヘルスケアの基礎：チーム論、基本技能、他 ② 地域参加型学習：地域のニーズに即した課題解決型学習 2. コミュニティ・ヘルスケア論 I (2 単位：2 年次) ① 超高齢社会の課題と地域における保健・医療・福祉サービス ② チーム医療の基礎：コミュニケーション、倫理、医療安全、他 ③ チーム医療の実践：栄養サポート、緩和ケア、感染対策、他 ④ 地域包括ケアの実践 <選択科目> 1. コミュニティ・ヘルスケア論 II (2 単位：3 年次) ① 医療・福祉情報通信技術(ICT)：個人情報管理、地域における ICT の活用 ② 高齢者宅への訪問実習 ③ 高齢者の生活調査 2. コミュニティ・ヘルスケア実習 I (IPE)(2 単位：4・6 年次) ① 地域診断：担当地域の保健医療福祉の実態把握および高齢者の健康調査 ② 高齢者との共生体験・高齢者家庭支援体験：認知症予防プログラム、Advance care plan の実施 ③ コミュニティ・ヘルスプロモーション演習：高齢者の生活支援企画

	④コミュニティ・ヘルスケア・ワークショップ：自らの専門性をふまえた多職種協働のあり方の検討			
	3. コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ(IPE)(2 単位：4・6 年次)			
	①大学・地域中核病院におけるチーム医療体験実習：地域連携実習を含む			
	②訪問診療・訪問薬剤管理指導・訪問看護・訪問リハビリテーションの同行実習： 診療、服薬指導、生活支援、リハビリの見学			
	③「暮らしの保健室」相談対応実習			
	④施設型在宅医療実習			
	* IPE：Interprofessional Education（専門職種連携教育）			
実施部局等 単位認定者	科目名	実施部局等	単位認定者	
	インタープロフェッショナル・ヘルスケア論	教養教育	早野順一郎	
	コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	医学部	早野順一郎	
	コミュニティ・ヘルスケア論Ⅱ	医学部	早野順一郎	
	コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅰ	医学部	早野順一郎	
	コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ	医学部	早野順一郎	

学部・研究科横断型教育プログラム企画書

医療系学部・研究科連携教育委員会 (AMEC)
委員長 医学研究科 早野順一郎

プログラム名	地域と育む未来医療人「なごやかモデル」 コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース
対象学生	原則として、医師、薬剤師、看護師、理学療法士等の医療福祉系の免許を有し、名古屋市立大学医学研究科修士課程・博士課程、薬学研究科博士前期課程・博士後期課程・博士課程、看護学研究科博士前期課程・後期課程のいずれかに在籍する大学院生または同課程の科目等履修生（ただし、修士課程または博士前期課程に在籍する学生においては、原則として保健医療福祉現場の経験を3年以上有する者）
目的	エイジング・イン・ブレイス(AIP)社会の医学・医療の発展と向上を担うコミュニティ・ヘルスケア指導者を養成する。コース修了者は、多職種協働による在宅ケア、認知症ケア、緩和・終末期ケア、コミュニティとの協働による地域包括ケアのコーディネートを含む、超高齢社会の多様なニーズに対応し、かつ、未来医療のデザインや開発に貢献することが期待されている。
修了要件	必修科目 7 単位、選択科目 3 単位以上、合計 10 単位以上
履修内容	<必修科目> 1. 地域包括ケアシステム学特論(2 単位) ①地域包括ケアシステムを必要とする社会背景とシステムの構成要素 ②地域包括ケアシステムにおける「住まい」「生活支援」「医療」「介護」のあり方 ③地域包括ケアシステムにおいて諸主体が取り組むべき方向 ④地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みとモデル例 2. 緩和・終末期ケア学特論(2 単位) ①がん患者の苦痛と緩和医療 ②終末期ケア 3. 総合認知症学特論(2 単位) ①認知症の基礎と臨床の知識 ②認知症の治療およびケア介入方法 4. コミュニティ・ヘルスケア実習(1 単位)

①暮らしの保健室体験実習 ②在宅医療多職種連携研修会への参加 ③訪問診療・訪問薬剤管理指導・訪問看護・訪問リハビリテーションの見学	
<選択科目> 1. 緩和・終末期ケア学演習(1 単位) ①在宅医療多職種連携研修会世話人会への参加 ②在宅医療多職種連携研修会における事例検討の企画・実施・評価 2. 緩和・終末期ケア実習(2 単位) ①緩和・終末期ケアを必要とする事例に対する療養生活支援計画・実施・評価 3. 総合認知症学演習(1 単位) ①在宅医療多職種連携研修会世話人会への参加 ②在宅医療多職種連携研修会における事例検討の企画・実施・評価 4. 認知症ケア実習(2 単位) ①認知症ケアを必要とする事例に対する療養生活支援計画・実施・評価 5. 未来医療デザイン特論(2 単位) ①未来医療に求められる健康や疾患の概念 ②都市型超高齢社会の保健医療システム ③医学・医療・ICT 医学に関する最新の知見と動向 6. 医療 ICT 管理学(2 単位) ①医療 I C T 医学における概論と方法論 ②在宅医療・介護における情報連携の仕組み ③医療フォレンジックや医療情報における情報セキュリティ ④在宅における最新医療機器の臨床活用 7. コミュニティ創成特論(2 単位) ①ヘルスケア・コミュニティ構築・運営における支援の在り方 ②ヘルスケア・コミュニティ構築・運営における仕組みづくり ③円滑なコミュニティ（ヒューマン・ネットワーク）づくり 8. 臨床研究マスタープログラム(6 単位)	
【教育内容および評価基準の考え方】 本科目は、博士課程・博士後期課程および修士課程・博士前期課程の学生が履修	

実施部局等 単位認定者	するため、教育内容および評価基準を以下の通りとする。 教育内容： 修士課程・博士前期課程の学生の場合、「保健医療福祉現場での経験 3 年以上」を履修資格とすることで、博士課程・博士後期課程の学生と同じレベルと見なし、教育内容は同じとする。 評価基準： 博士（後期）課程、修士（前期）課程ともに、多職種協働による地域包括ケアのコーディネートを主体的に実施し、多職種連携チームにおけるリーダー役割を修得することを評価基準とする。具体的には、多職種連携在宅医療研修会における事例検討会および支援が必要な事例に対する療養生活支援の実施内容とその成果を評価する。さらに、博士（後期）課程の学生には、地域包括ケアにおける教育および研究を実施できる能力を修得することを評価の基準とする。具体的には、多職種連携チームにおける事例検討または療養生活支援事例の成果を考察し、それを学会等で発表することを課す。		
	科目名	実施部局等	単位認定者
	地域包括ケアシステム学特論	看護学研究科	明石恵子
	緩和・終末期ケア学特論	医学研究科	明智龍男
	総合認知症学特論	医学研究科	松川則之
	コミュニケーション・ヘルスケア実習	看護学研究科	明石恵子
	緩和・終末期ケア学演習	看護学研究科	明石恵子
	緩和・終末期ケア実習	看護学研究科	明石恵子
	総合認知症学演習	看護学研究科	明石恵子
	認知症ケア実習	看護学研究科	明石恵子
	未来医療デザイン特論	医学研究科	早野順一郎
	医療 ICT 管理学*	名古屋工業大学 工学研究科	岩田彰
	コミュニケーション創成特論*		
	臨床研究マスタープログラム	薬学研究科	鈴木匡

*名古屋工業大学工学研究科との単位互換科目

資料 6

地域と育む未来医療人「なごやかモデル」

地域住民と学生の交流イベント

平成 26 年度

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業

1. なごやかモデル「鳴子学区住民とふれあい事業」(学区連絡協議会の事業)

放火防犯パトロール<第1回目> (学生4名参加) (地域住民30名)

(平成26年6月14日(土)18:00~19:00、中央公園集合)

参加対象: 連絡協議会各種団体 (区政・民生・保健等)

主催担当: 鳴子学区消防団

・パトロール・・・鳴子学区全域を4グループに別れて回る。

参加学生: 3名 (名市大1名、名学院2名)



納涼夏祭り (学生約35名参加) (地域住民800名)

(平成26年7月26日(土)17:00~21:00、中央公園 雨天時: 7月27日(日)17:00~21:00)

主催: 鳴子学区連絡協議会



なごやかモデルとして、学区住民とのふれあいについて

1. 祭り前日 (7月25日(金)18:00~)

ヤグラ組立、電球及び提灯の取付け

2. 祭り当日 (7月26日(土)17:00~)

健康相談開設・・・血圧測定

オリジナルうちわの配付(熱中症対策、おひさまカフェ、土曜サロン鳴子の紹介)

3. 祭り終了後の後片付け (7月26日(土)21:00~)

ヤグラ解体及び電球・提灯はずし

参加学生

前日準備: 名市大4名、名工大8名、名古屋学院1名

当日: 名市大4名、名工大9名、名古屋学院1名



普通救命リダー講習会 (1名参加) (地域住民25名)

(平成26年8月17日(日)9:00~12:00 鳴子コミセン)

参加対象: 区政協力委員 26名

講習内容: AED、人工呼吸、心臓マッサージ、救出訓練 (応急担架作成)

・3時間講習修了後に普通救命講習修了証の授与

・講師は緑消防署及び鳴子消防団員

参加学生: 1名 (名市大)



学区自主防災訓練 (学生 4 名参加)

(平成 26 年 9 月 7 日(日)午前 9 時～12 時、鳴子小学校体育館・運動場、雨天決行)

主催：鳴子学区防災安心まちづくり委員会

参加対象：学区住民 (平成 25 年の参加者 150 名)

講習内容：応急手当訓練 (三角巾、人口呼吸、AED、心臓マッサージ)

救出訓練 (応急担架を作成して救出訓練)

参加学生：3 名 (名市大)



2. 鳴子いきいきウォーキング(鳴子団地自治会)

(平成 26 年 10 月 26 日実施)

参加者総数 50 名 学生 18 名、地域住民 25 名、教員・スタッフ 7 名

(名市大 13 名、名学院 1 名、名工大 4 名)

目的：災害時の避難場所と危険な場所の確認やウォーキングを行うことによって独居の方や高齢者に外に出てもらい、健康増進を行うとともに学生と住民との交流を図る。



3. 名古屋工業大学主催「技術体験会」

(平成 26 年 11 月 16 日実施)

参加者総数 51 名 学生 12 名、地域住民 31 名、教員・スタッフ 8 名

目的：名工大は医療や福祉を専攻する学生に向けて ICT 医工学を学ぶ講座を開催した他、工学を専攻する学生に向けて高齢者福祉に関する講座を実施してきた。こうした学びを、さらに鳴子地区の地域住民と共に展開すべく体験会を行う。

① 歩行支援機「ACTIVE」 ② 動体視力測定

③ 肌判定システム ④ 温冷感提示システム



4. 土曜サロン鳴子 (平成 25 年 10 月 5 日から開始) 毎週土曜の午前(最終土曜を除く)

主催：緑区社会福祉協議会

参加 8 回 学生延べ 13 名、地域住民 44 名

目的：医薬看護連携地域参加型学習での介入により、サロン参加者を増やし鳴子団地住民の孤立防止に寄与する。

「土曜サロン鳴子」健康セミナー (平成 26 年 11 月 22 日 1 周年記念イベント)

学生 5 名 (名市大)

5. おひさまカフェ

参加 11 回。学生延べ 22 名



6. ふれあい餅つき大会

主催：「たすけあい名古屋」

(平成 26 年 12 月 6 日)

学生はレクレーションを企画

参加学生： 名古屋市 5 名、名学院 2 名



「なごやかモデル」プロジェクト 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

			H25年度		H26年度 計画		H26年度 実績		H26年度 進捗率	
			受入れ(傍聴?)	修了	受入れ	修了	受入れ	修了	受入れ(%)	修了(%)
コミュニティ・ヘルスケア卒前教育プログラム										
インタープロフェッショナル・ヘルスケア論	1年生	医	95	95	95	95	96	96	101	101
		薬	60	60	60	60	67	61	112	102
		看護	80	80	80	80	85	85	106	106
コミュニティ・ヘルスケア論Ⅰ	2年生	リハ			12	12	10	10	83	83
		医			95	95	104	104	109	109
		薬			20	20	28	28	140	140
コミュニティ・ヘルスケア論Ⅱ	3年生	看護			10	10	3	3	30	30
		リハ			68	68	68	68	100	100
		医	8	8	5	5	5	5	100	100
コミュニティ・ヘルスケア実習Ⅱ	4年生	薬								
		看護								
		リハ								
5年生	5年生	医			95	95	73	73	77	77
		薬								
		看護								
6年生	6年生	リハ			20	20	24	24	120	120
		医								
		薬								
コース修了(10単位取得)										
計			243	243	560	560	563	557	101	99
在宅医療・地域包括ケア研修プログラム										
初期臨床研修医		2			12	12	0	0	0	0
総合診療専門医研修プログラム										
	大学院生				2		0		0	
	後期研修医				3		0		0	
	一般医師				3		2		67	
コミュニティ・ヘルスケア指導者養成コース										
地域包括ケアシステム学特論	大学院生	医学研究科			20	20	2	2	10	10
		薬学研究科			3	3	1	1	33	33
		看護学研究科			5	5	9	9	180	180
	工学部					0	0			
科目等履修生					0	0	0	0		
その他										
緩和・終末期ケア学特論	大学院生	医学研究科			20	20	20	20	100	100
		薬学研究科			3	3	2	2	67	67
		看護学研究科			2	2	4	4	200	200
	工学部									
科目等履修生					0	0	0	0		
その他										
総合認知症学特論	大学院生	医学研究科			20	20	16	16	80	80
		薬学研究科			3	3	7	7	233	233
		看護学研究科			2	2	5	5	250	250
	工学部									
科目等履修生					0	0	0	0		
その他										
コミュニティ・ヘルスケア実習	大学院生	医学研究科								
		薬学研究科			2	2	2	2	100	100
		看護学研究科			2	2	3	3	150	150
	工学部									
科目等履修生					0	0	0	0		
その他										
緩和・終末期ケア学演習	大学院生	医学研究科			0	0	0	0		
		薬学研究科			0	0	0	0		
		看護学研究科			0	0	0	0		
	工学部									
科目等履修生					0	0	0	0		
その他										
緩和・終末期ケア実習	大学院生	医学研究科			0	0	0	0		
		薬学研究科			0	0	0	0		
		看護学研究科			0	0	0	0		
	工学部									
科目等履修生					0	0	0	0		
その他										
総合認知症学演習	大学院生	医学研究科			0	0	0	0		
		薬学研究科			0	0	0	0		
		看護学研究科			0	0	0	0		
	工学部									
科目等履修生					0	0	0	0		
その他										
認知症ケア実習	大学院生	医学研究科			0	0	0	0		
		薬学研究科			0	0	0	0		
		看護学研究科			0	0	0	0		
	工学部									
科目等履修生					0	0	0	0		
その他										
医療ICT管理学	大学院生	医学研究科			0	0	0	0		
		薬学研究科			0	0	0	0		
		看護学研究科			0	0	1	1		
	工学部					13	13			
科目等履修生					0	0	0	0		
その他										

コミュニティ創成特論	大学院生	医学研究科			0	0	2	2		
		薬学研究科			0	0	2	2		
		看護学研究科			0	0	13	13		
	工学部									
	科目等履修生 その他				0	0	0	0		
未来医療デザイン特論	大学院生	医学研究科			20	20	3	3	15	15
		薬学研究科			0	0	1	1		
		看護学研究科			0	0	2	2		
	工学部						13	13		
	科目等履修生 その他				0	0	0	0		
臨床研究マスタープログラム	大学院生	医学研究科			0	0	0	0		
		薬学研究科			0	0	0	0		
		看護学研究科			0	0	0	0		
	工学部									
	科目等履修生 その他				0	0	0	0		
コース修了(10単位取得)	大学院生	医学研究科			0					
		薬学研究科			0					
		看護学研究科			0					
	工学部									
	科目等履修生				0					
計					102	102	121	121	119	119
ICT医工学の実践的リーダーの育成										
	名古屋工業大学				8		13		163	
多職種連携在宅医療研修会		基礎	1	1	3		3		100	
		応用	0	0	1		1		100	
	専門職	医師	5	5	15		15		100	
		歯科医師	5	5	15		15		100	
		薬剤師	5	5	15		15		100	
		看護師	5	5	15		15		100	
		保健師	5	5	15		15		100	
		理学療法士	2	2	6		6		100	
		作業療法士	2	2	6		6		100	
		言語聴覚士	1	1	3		3		100	
		神経心理士	1	1	3		3		100	
		歯科衛生士	2	2	6		6		100	
		管理栄養士	1	1	3		3		100	
		介護支援専門員	3	3	9		9		100	
		MSW	2	2	6		6		100	
		社会福祉士	3	3	9		9		100	
		介護福祉士	3	3	9		9		100	
	行政		2		6		36		600	
	学生		3		9		9		100	
	研修医		1		3		3		100	
	大学院生		1		3		3		100	
計			53	46	160	0	190		119	
インプット		施設	コミュニティ・ヘルスケア教育研究センター 「暮らしの保健室」 キャリア支援室 ICT情報共有ネットワーク ビデオ会議システム							
		講座設置	地域療養医学 地域療養薬学 地域療養生活看護学 地域療養リハビリテーション学 地域療養ヘルスケア工学							
アウトプット		論文発表数	3		8		16		200	
		学会発表	3		15		40		267	
		特許申請数					1			
			「なごやかモデル」プロジェクトHP開設							
		教育システム開発	プロフェッショナルリズムとチームワーク能力評価のためのオンライン					学生の地域活動評価・管理システム e-learningシステム		
アウトカム		成果	キックオフ・シンポジウム開催			「なごやかモデル」事業成果還元シンポジウムの開催	「なごやかモデル」公開シンポジウム 2015.2.14開催		達成	
		地域交流・啓発イベント	1		4		16		400	
		在宅看取り数	1		6		0		0	
		住民調査	1000		2000		868		43	
		ヘルスプロモーション	200		600		624		104	
		暮らしの保健室訪問者	50		300		315		105	
		多職種協働チームによる高齢者支援 多職種協働チームによる在宅医療・介護	10		100		81		81	
		在宅対応医	2		4		4		100	
		調査・研究数	1		3		3		100	
		介入試験数	0		2		0		0	
		アンケート調査数	1		3		4		133	
		データベース登録住民数	5		20		0		0	



ようこそ大学へ！プロジェクト

—施設の子どもたちへの学習支援—

in 名古屋市立大学滝子キャンパス

ようこそ大学へ！プロジェクト とは？

本企画は児童養護施設など施設で生活する子どもたちと大学生が交流しながら大学という場所を知ってもらい学習支援を行うものです。対象は名古屋市が所管する児童養護施設などで生活する小中学生です。具体的には、大学生による大学生活案内（授業、サークル、バイト、etc...）、研究室スタンプラリー、教授カフェ、心理学実験体験、ゼミ見学、学生食堂体験を企画しています。



※児童養護施設とはなんらかの事情で保護者とともに暮らすことのできない子どもが暮らしている家であり、全国に約 550 施設、約 3 万人の子どもたちがいます。名古屋市にも 14 施設あり約 650 人の子どもが生活しています。

プロジェクト情報

【日付】2014 年 8 月 8 日（金）

10 時～16 時

【場所】名古屋市立大学 滝子キャンパス
人文社会学部棟（1 号館）



本企画は名古屋市子ども青少年局の依頼を受け、名古屋市立大学が実施する共同企画です。本企画に関する問い合わせは名古屋市役所子ども青少年局子ども福祉課または名古屋市立大学までどうぞ☆

協力：特定非営利活動法人 夢シート

お問い合わせ先

名古屋市子ども青少年局子ども福祉課 052-972-2519

名古屋市立大学人文社会学部山の畑事務室 052-872-5701

名古屋市立大学人文社会学部谷口由希子研究室 tyukiko@hum.nagoya-cu.ac.jp

ようこそ大学へ！プロジェクト －施設の子どもたちへの学習支援－開催報告

本企画は、児童養護施設等で生活する子どもたちの大学体験企画であり、名古屋市子ども青少年局からの依頼を受け、名古屋市立大学大学院人間文化研究科（谷口由希子研究室）が中心となって昨年に引き続き開催したものです。

子どもたちが大学の雰囲気を経験することで、学習支援と高校・大学進学への動機づけを促すことを目的としています。

児童養護施設で生活する子どもたちが大学に出向くという取り組みは、全国的にも珍しい取り組みです。

なお、当日は岩城正光副市長も出席いただきました。

記

開催日	平成 26 年 8 月 8 日（金）
開催場所	名古屋市立大学滝子キャンパス 1 号館
内 容	・教授カフェ：研究室訪問（子どもたちが研究室を訪ね教授らに質問する） ・心理学実験体験 ・学生食堂体験 ・ボランティア学生による大学生活の案内や夏休みの宿題支援
参加者	児童福祉施設で生活する小中学生 49 名（小 26 中 11 高校 2） 大学生ボランティア学生 54 名 プロジェクト参加教員 21 名

■プロジェクト参加児童の様子

・郡健二郎学長からのメッセージ

「みなさんは大学に行きたいと思いましたが？」

・教授カフェ：研究室訪問（野中壽子教授）

動作発達実験体験



■児童の主な感想

- ・大学生がみんな優しく勉強も分かりやすく行ってよかった。
- ・楽器体験が楽しかった。
- ・大学生の人が楽しかった。
- ・音楽のところが楽しかった。アルバイトの制服体験が面白かった。
- ・逆さめがねの体験が面白かった。
- ・進学を希望する上で貴重な体験となりました。今後もこのような活動が増えていくことを期待します。
- ・EXILEのメンバーに似た人がいて面白かった。
- ・お勉強会の時、大学生が分かりやすく親切に教えてくださったのですが、とてもやりやすくよかったです。
- ・特に心理学実験の部屋が面白くて楽しかったです。
- ・楽しかったです。トレーニングルームや食堂、校内を楽しく回れました。食堂ではどの品もおいしかったです。校内ではスーパーボール作りや職業の服装を着たり、食べたりすることができました。
- ・ドイツ語を教えてくださいありがとうございました。楽しかったです。
- ・今回のプロジェクトに参加して大学に行きたいと感じた。
- ・苦手な学習も楽しく進めることができた。
- ・楽しい体験がたくさんできてよかった。
- ・参加に乗る気ではなかったのだが、行ってみるととても楽しくいろいろなものが学べてよかった。学生のお兄さんやお姉さんと話げたことも楽しかった。

■プロジェクトの紹介記事（朝日新聞朝刊 8月12日）

養護施設の子ら 学生生活を体験

名古屋市大

名古屋市の児童養護施設などで暮らす小中学生ら40人が、名古屋市立大学滝子キャンパス（瑞穂区）を訪れ、ボランティアの学生らと一緒に、研究室や学生食堂などを回って楽しんだ。

進学に関心を持ってもらおうと、市と名市大が連携した学習支援事業。8日、人文社会学部の学生ら50人から学校の宿題を教わった後、学食で好みの食事を味わった。

子どもたちに手話で歌を贈る学生たち＝名古屋市瑞穂区

わい、16の研究室を見学。心理学の実験を体験し、アルバイトや部活など学生生活の楽しさも学んだ。

虐待など様々な事情で親から離れて暮らす児童養護施設の子らは、高校や大学への進学率が一般に比べて低い。名市大大学院の谷口由希子准教授は「現在勉強していることが将来どのようなところへつながるのかわかり、夢を持ってもらいたい」と話した。

【年度計画27】

平成 26 年度国際学会発表支援事業 実績一覧

研究科	人数	主な参加学会（国名）
医学研究科	15	・ 8th London International Symposium on Cough（イギリス） ・ XIVth International Symposium on Proteinases, Inhibitors and Biological Control（スロベニア） ・ The 25th “SECEC-ESSSE European Society for Surgery of the Shoulder and Elbow”Congress（トルコ） ・ Asian Pacific Digestive Week 2014（インドネシア） ・ Society for Neuroscience 2014（アメリカ）
薬学研究科	21	・ the 9th Liquid Matter Conference – Liquids 2014（ポルトガル） ・ Annual Symposium of Society for the Study of Inborn Errors of Metabolism（オーストリア） ・ FEBS EMBO 2014 Conference（フランス） ・ 17th International Congress of Oriental Medicine（台湾） ・ Neuroscience2014（アメリカ）
人間文化研究科	1	・ 17th World Congress of the International Association of Applied Linguistics(AILA2014)（オーストラリア）
芸術工学研究科	2	・ 9th INTERNATIONAL SHIBORI SYMPOSIUM（中国）
システム自然科学研究科	3	・ ASTRONOMICAL POLARIMETRY 2014（フランス） ・ IAPB congress 2014（オーストラリア） ・ International Conference of Asian Environmental Chemistry 2014（タイ）
合計	42	

参照 URL: <http://www.nagoya-cu.ac.jp/item/149913.htm#itemid149913>

【年度計画37】

研 究 科 再 編

シ ス テ ム 自 然 科 学 研 究 科

平成25年度組織
生体情報専攻

(博士前期・後期で異なる系を構成)

博 士 前 期		博 士 後 期	
生体構造情報系		生体要素情報系	生体総合情報系
細胞生物学 分子系統学 生体分子化学 生物無機化学 生物多様性科学			
生体制御情報系			
スポーツ心理学 バイオメカニクス 分子生物学 植物生理学 RNA生物学			
生体高次情報系		生体の構成要素（分子・遺伝子・細胞など）の作用機構とそれらの持つ情報を研究対象にする。 情報・遺伝・進化等の分野、研究手法の発展に寄与する分野の研究を行う。	人体情報・生理情報・生体の発する情報や情報を発する機構を研究する。
画像処理学 視覚情報学 位相幾何学 情報ネットワーク 情報教育学 数理生物学 理論集団遺伝学			
生体物質情報系			
化学分光学 天文学 地球物理学 構造物性物理学 生物物理化学 物性理論学			

入学定員15名 入学定員5名
教員定員23名

平成26年度組織
生体情報専攻

博 士 前 期・博 士 後 期	
生 命 情 報 系	進化遺伝システム学
	進化遺伝学
	生物多様性情報学
	分子系統学 生物多様性学
	生体物質応答学
	タンパク質分子情報学 生物エネルギー学
	高次遺伝情報学
	分子遺伝学 細胞生物学
	遺伝子制御学
	遺伝子制御学 植物生理学
自 然 情 報 系	生体運動情報学
	運動生理学 運動分子生物学
	システム情報学
	ネットワーク情報学 教育工学
	知覚情報学
	画像情報学 音声情報学
	数理情報学
	数理遺伝学 位相幾何学
	天体地球情報学
	天文学 地球物理学
報 系	物理情報学
	物性理論学 構造物性物理学
	化学情報学
	分子構造学 物性化学

入学定員15名(前)+5名(後)
教員定員23名

基礎自然科学系学部設置構想について

公立の総合大学として地域への学術的貢献領域を広げ、名市大の「知の創造の拠点」機能を拡充させる～世界をリードする大学への布石～

＜社会的背景＞

- ①イノベーション創出人材・理工系人材の育成
 - ・ライフサイエンスを含む理工系分野をこれまでに強化＜教育再生実行会議提言（H25.5）＞
 - ・学生が興味を持つ実践的なカリキュラムによる理工系人材の育成を図ること＜中経連（H26.2）＞
- ②大学間競争の激化
 - ・少子化の急激な進行等により大学全入時代に入り、学生獲得競争がさらに熾烈に
- ③COC・地（知）の拠点大学としての機能強化
 - ・大学の資源を最大限活用して、地域を志向した教育・研究・社会貢献へ取り組む必要

＜大学の使命＞

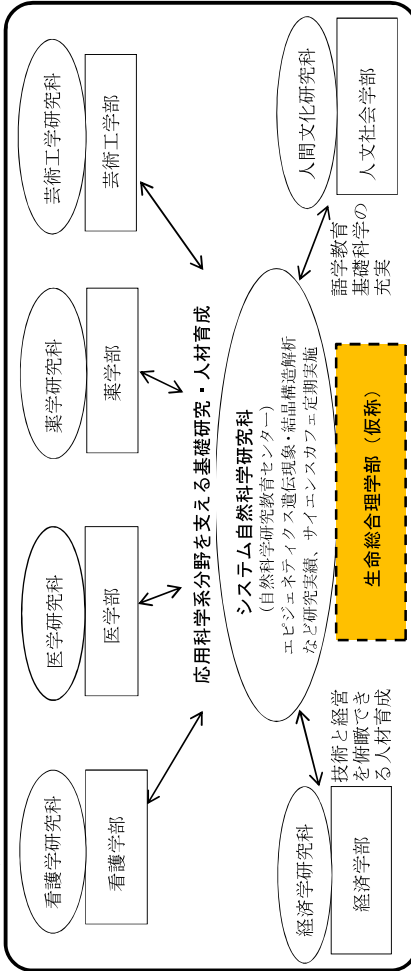
- ①持続可能な共生社会の形成の諸課題に取組む（第2期中期目標 前文）
 - ・「市民の健康と福祉の向上」、「地球環境の保全」など生命科学を中核とした教育研究
- ②公立の総合大学としての魅力向上と地域貢献の促進が必要
- ③経営基盤の安定化（名市大未来プラン）
 - ・厳しい経営状況を踏まえ、資産（教育資源）の有効活用と収入増加を図る
- ④大学の教育方針（大学憲章）
 - ・自ら学ぼうとする者に広く門戸を開き、次世代をリードするバランス感覚に溢れた人材を育成

＜理系教育の状況＞

- ①優秀な理系人材の流出
 - ・地域の理系学部定員が不足し高等教育機会の提供が不十分（全国平均の40%程度の入学者数）
[18歳人口千人あたり専門分野別入学者数（平成26年度学校基本調査より）]

	理学	工学	保健	農学	人文	社会科学	教育	芸術	家政	その他	計
愛知県 A(人)	5.9	98.2	54.1	12.5	110.3	185.1	46.5	17.4	24.5	28.3	582.8
全国 B(人)	15.7	76.6	56.5	14.6	73.7	166.5	39.9	14.5	15.0	39.9	512.8
割合 A/B(%)	37.8	128.1	95.7	86.1	149.7	111.2	116.5	120.4	163.6	70.9	113.6
- ②理数系教育を中心とした高大連携の促進
 - ・高校生への「入学前の既修得単位の認定」等の取組み
 - ・グローバルサイエンスキャンパス（SSHとの連携含む）（文科省26年度新規事業）
 - ・高校理科教員との交流（教育内容の協議・学び直し・リカレント教育・高校教員の学位取得）

＜教育研究組織＞



○設置の考え方⇒自然科学研究教育センターの発展・改組⇒既存の教員組織・施設を活用し、教員の増員・施設の新設をしない。

- ・人材育成の方針：自然科学分野横断的な基礎知識を習得し情報処理技術を十分理解したうえで、専門分野を深く学び、科学技術の社会利用をバランス良く実現できる人材を輩出
- ・学部学科：生命総合理学部 生命・物質科学科（仮称）
- ・教育課程：1学科2コース構成（入学定員：既存の教員組織・施設で受入れ可能な数十名程度）
 - ・生命情報コース（先端生命科学と健康・生物多様性と進化）
 - ・生命の仕組みと環境との相互作用について、生体分子から生態系レベルまでの広い範囲で複雑な生命情報ネットワークを理解

【新学部設置構想】

- ・進路：大学院進学（理学系・医療系（医学(修士)薬学(博士前期)）等）、研究職、各種企業、高等学校教員、公務員

【効果】

- ①名市大の自己収入増加（約1億円授業料等収入増）
- ②名古屋市の収入増（基準財政需要額2.8億円増）・支出減を誘因
- ③学部から大学院まで一貫した教育研究により成果向上
- ④名古屋市の施策の推進（次世代を担う産業人材の育成、高大連携推進など）
- ⑤優秀な研究者・技術者の輩出→イノベーション創出の担い手となる若手研究者の育成、企業が求める「社会人基礎力」を身に付けた人材輩出、教員養成による中等理科教育の強化

【年度計画44】

学部・研究科	実施科目	担当教員	実施日	参加人数
医学部	PBL	大原弘隆・早野順一郎	平成26年12月16日	
		飯塚成志・兼松孝好	平成27年1月13日	
薬学部	薬理・毒性学Ⅱ	桑 和彦	平成26年10月1日	17名
人文社会学部	次世代育成の教育論	上田敏丈	平成26年5月14日	25名（うち院生4名）
芸術工学部	映像プロデュース論	栗原康行	平成26年7月7日	13名
	疾病・治療論Ⅲ	薊 隆文	平成26年11月4日	16名
	クリティカルケア看護論	寫田理佳	平成26年10月30日	5名
	疫学	金子典代	平成26年10月9日	12名
	生命情報学特論 理学情報概論 物質科学 進化自然学 数理情報学 自然情報学特講 分子生物学	複数教員によるオムニバス科目	随時実施	
教養教育	特色科目20 (AIDSと向き合う社会)	市川誠一・金子 典代	平成26年7月10日	8名
	コミュニケーション英語3	ルイーズ・ヘインズ	平成26年11月17日	5名